

# 平成27年度 胎内市生活科部 活動報告

部長 平澤 妙子

## 1 研究主題

体験と言語活動をとおして、学びを深める子どもの育成

## 2 研究の概要

- ・研究主題に沿った実践発表会や授業研究をとおして、部員の授業力向上を図る。
- ・総合的な学習の時間と合同で研修することで、生活科と総合的な学習の時間の接続の図り方を考える。

## 3 研究の実際

(1) 実践発表会、講話 会場 胎内小学校 9:30～ 参加者5名

- ・研究主題に沿った実践発表を行った。生活科においては、相手意識や目的意識をもたせた言語活動の重要性や発表の仕方の工夫について話題になった。総合的な学習の時間においては、体験活動とファシリテーションを適切に位置づけることにより児童が主体的に追求活動に取り組んだという実践発表があった。
- ・「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」のテーマで、田中範克校長先生（築地小学校）よりお話をしていただいた。「キャリア教育とは何か」「キャリアカウンセリングをどう行ったらよいか」等について詳しく教えていただいた。

(2) 授業研究会 会場 きのと小学校 14:00～ 参加者7名

① 授業者 稲葉 久美子 先生（きのと小学校教諭）

② 単元名 1年 生活科

「あそびにいこうよ ～あそびのひろば～」

③ 指導者 田中 範克 校長先生（築地小学校）

④ 授業・協議会の概要

- ・本時のねらいは「他の店で遊んだり試したりして意見を交流しながら、自分が工夫することを見つけることができるようにする。」だった。話しやすくしたりしっかり聞いたりできる指導のあり方について提案された。
- ・体験を繰り返すことで、子どもたちは学び、発達していくことが実感できた授業であった。話型にしても聞き方にしても、汎用性のあるものを日頃から指導していくべきだという意見が出された。
- ・指導者からは、何をしたらよいか、しっかり提示することが大切であることを教えていただいた。本時では話型を提示していた。それを見て、話すことが苦手な子どももできるようになっていく。また、体験、表現、理解はトライアングルであること、「何を知るようになったか」ではなく、「何ができるようになったか」が大切であることも教えていただいた。



## 4 成果と課題

- ・それぞれの実践を紹介し合い、今後の実践に生かせることを得ることができた。また、講話を聞き、すべての教育活動がキャリア教育につながることで、未来を担う子どもたちにキャリア教育を意識した指導をしていくべきだということ学んだ。
- ・授業研究会では、体験と言語活動をつなげた授業を公開していただき、1時間の中で、体験を繰り返すことにより子どもたちが成長していく姿を見せていただいた。また、授業の中での言語活動の取り入れ方についても学ぶことができた。
- ・小・中の連携が必要である。小・中ともに、研修が深まるような内容を工夫していく必要がある。